

## 令和4年度 第1回 周南市地域づくり推進協議会 会議録

1. 日 時 令和4年9月8日(木) 18時00分～19時30分
2. 場 所 周南市本庁舎2階 共用会議室G
3. 出席者 内山浩昭 委員、熊原靖夫 委員、小林和子 委員、坂根美音 委員、  
佐藤幸宏 委員、末田真由美 委員、竹内裕光 委員、竹尾真実 委員、  
難波利光 委員、藤本賢司 委員、船崎美智子 委員、渡辺明彦 委員、  
渡辺裕子 委員  
(以上13名)
3. 欠席者 藤井蔵吉 委員、山本多恵 委員
4. 事務局 地域振興部 末永、橋本  
地域づくり推進課 神杉、三牧、中嶋
5. 傍聴者 なし
6. 会議内容

開 会 事務局が司会進行

- ・市民憲章唱和
- ・あいさつ 地域振興部長
- ・委員・事務局自己紹介
- ・会長・副会長選出 (会長に難波利光 委員、副会長に船崎美智子 委員が就任)

議 事

| 発言者  | 発言内容  |
|------|---|
| 会 長  | これより議事に入る。<br>それでは次第に沿って進める。<br>はじめに、議事の ア) 地域づくり推進協議会委員の役割及び年間スケジュール について、説明をお願いします。 |
| 事務局  | (別紙資料をもとに説明)  |
| 会 長  | 事務局からの説明に対し、何か不明の点や質問はないか。  |
| 委員 A | 評価はどのように提出するのか。   |
| 事務局  | メールにて提出をお願いします。評価の詳細については、後ほど説明する。  |
| 会 長  | 続いて、議事の イ) 地域づくり推進計画の進捗 について、説明をお願いします。   |

| 発言者  | 発言内容   |
|------|--|
| 事務局  | (基本施策 1 について、別紙資料をもとに説明)   |
| 会 長  | 事務局からの基本施策 1 の説明に対し、何か不明の点や質問はないか。   |
| 委員 A | 自治会加入促進については、施策がないのか。  |
| 事務局  | 施策はあるが、現状では加入促進に有効な取組みとは言えない。  |
| 委員 A | 自治会長に対して、個別訪問による加入促進活動をお願いしてはどうか。  |
| 事務局  | 自治会によってはそういった取組みもされている。<br>ただ、役員の持ち回りをしている自治会も多く、新任の自治会長等がそこまで対応できていないのが現状である。   |
| 事務局  | (基本施策 2 について、別紙資料をもとに説明)   |
| 会 長  | 事務局からの基本施策 2 の説明に対し、何か不明の点や質問はないか。   |
| 委員 B | 市民活動グループバンクとは具体的にどういったものか。また、登録数が減っている理由は。   |
| 事務局  | 市民活動グループバンクは、市民活動支援センター団体登録制度のこと。登録することで、印刷機等の利用ができるようになる。<br>登録数減少については、毎年全団体の登録更新を依頼する中で、更新をしない団体もある。コロナ禍や団体構成員の高齢化等が要因と考えられる。 |
| 会 長  | 登録数は何団体増えて、何団体減っているのか。   |
| 事務局  | 10 団体増えて、15 団体減っている。(※後日確認)  |
| 事務局  | (基本施策 3 について、別紙資料をもとに説明)   |

| 発言者  | 発言内容   |
|------|--|
| 会 長  | 事務局からの基本施策 3 の説明に対し、何か不明の点や質問はないか。                             |
| 委員 C | リーダー的な人材の発掘・育成について、目標値を大きく上回る実績値となっているが、何をもってリーダー的な人材と判断しているか。 |
| 事務局  | 地域団体の役員（会長・副会長）や、地域の夢プランをはじめとするプロジェクトのリーダー等を実績に計上している。         |
| 委員 C | 新たに発掘・育成されたリーダーの年齢層はどうか。                                       |
| 事務局  | プロジェクトのリーダーには若手の方も多く、良い傾向と考えている。                               |
| 委員 D | 移住相談対応に関する若者向けの勉強会を開催したとあるが、具体的にどのようなことを行ったのか。                 |
| 事務局  | 若い方からの移住相談に、それと同世代の住民が対応できるようになることを目指した勉強会をしている。               |
| 委員 D | 参加者の年齢層はどうか。   |
| 事務局  | 20 代から 40 代。   |
| 委員 E | 移住を検討するタイミングとして、子どもが小学生になるときが一つのポイントである。                       |
| 事務局  | 地域づくり応援サイトという HP を中心に情報発信をしているため、サイトの閲覧者がメインのターゲットとなっている。      |
| 委員 F | 移住相談対応に関する若者向けの勉強会は、どんな人に声掛けをして開催しているのか。                       |

| 発言者 | 発言内容  |
|-----|---|
| 事務局 | 地域で活躍している若手に声掛けをしている。現状では公募等はしていない。   |
| 副会長 | 移住相談の件数等は把握されているか。  |
| 会長  | 把握している。<br>R3年度は、<br>・周南市への移住相談が191件（うち、中山間地域が105件）<br>・制度を利用し、周南市に移住したのは5世帯8人（うち、中山間地域が4世帯6人）<br>（※後日確認）                             |
| 副会長 | 移住事例に関する情報発信をしてはどうか。<br>また移住を考える人に、地域の魅力を伝えるアドバイザーのような方が増えていくことを期待する。   |
| 委員D | 日中にその地域にいる方に、地域づくり活動を担ってもらえるような、関係人口を活用するシステムを作ってはどうか。  |
| 事務局 | 企業によるボランティアやCSR活動の促進についてのご意見ということでよろしいか。  |
| 委員D | そのとおり。  |
| 事務局 | 移住促進や関係人口の創出・拡大については、シティープロモーション課とも連携して行っている。<br>県外も含め、幅広く情報発信を進める中で、まずは周南市や地域に関心を持ってもらうことから取り組んでいきたい。                                |
| 会長  | 移住者については、地元の人とうまく行かず、移住してもその後定着しない傾向がある。<br>地域に外から人を受け入れるという行為は、歴史上あまりしてきていないため、潜在的に抵抗がある。<br>移住促進も良いが、地元の人に対する、移住者受け入れについての教育も必要である。 |

| 発言者 | 発言内容                                    |
|-----|---|
| 会 長 | 続いて、議事の ウ) 地域づくり推進計画の評価 について、説明をお願いします。 |
| 事務局 | 別紙資料をもとに説明                              |
| 会 長 | 事務局からの説明に対し、何か不明の点や質問はないか。              |
| 委 員 | (発言なし)                                  |